西条中学校研究通信

R7 年度
第１号
研究部

R7 年度がスタートしました。今年度は、公開研究会開催の年となります。研究発表への取り組みを通して、西条中全体の授業力を上げていきましょう。チーム西中、本格スタートです。

１．公開研究会について

日時：令和７年１１月１２日（水）
授業公開：全学級
指導助言：大妻女子大学　澤井陽介先生

２．研究主題

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導の工夫
～「選択」と「共有」の場面を取り入れた単元づくりを通して～

３．当面の研修予定

４月：今年度の研究推進の概要について
　　授業者決定（原案は研究から出します）
　　以後、単元づくり、指導案作成等、各ブロックで研修を進めてください。
６月１８日（水）：澤井陽介先生を招いての校内研修
　　４校時：研究授業
　　午後、研究協議及び理論研修
７月２日（水）：校内研修
　　各ブロックの進捗状況確認及び指導案検討
　　夏休み開始までに指導案を起案すること。

＊６月１８日と７月２日は、部活動は休みとし、全員研修に参加してください。

４．指導案作成について

⑴ 単元の中に**「選択」と「共有」の場面**を、必ず１回は設定する。

⑵ 「めあて」と「学習課題」について
「めあて」とは、「〇〇について理解する」といった「この１時間の授業で生徒につけたい力」を生徒の立場で示すもの。（指導者の立場で示すものが「ねらい」）
「学習課題」とは、「めあて」の達成に向けて生徒が各教科の見方、考え方を働かせながら追究していく「問い」や「活動」。
全ての教科、授業において「めあて（ねらい）」は準備しておく必要があり、原則、授業の導入部で生徒に提示するものである。しかし、教科の特性により、「めあて」ではなく「学習課題」を提示した方がよい場合がある。その場合は、授業後半に「まとめ」として、例えば「〇〇とは～である」等、生徒に共有化させる必要がある。

⑶ 振り返りについて
「主体的に学習に取り組む態度」を評価するためには、**生徒がどのように自らの学習を調整しようとしているかを見取る**必要があります。そのためには、「〇〇についてよくわかった」等の単なる授業評価ではなく、例えば「誰のどのような学びが自分の学びに参考になったか」などを振り返らせるようにしましょう。

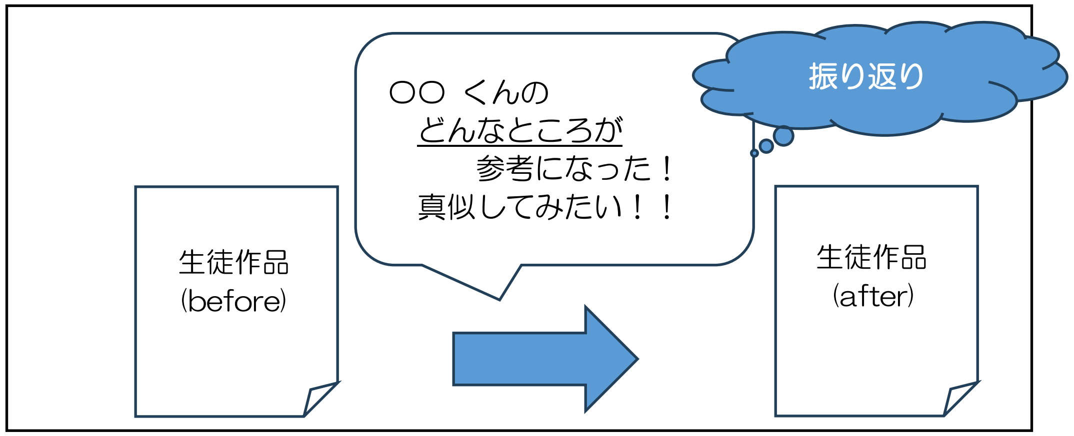
⑷ 評価規準について
本時における評価の観点においてのみ『「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿』を記述する。

⑸ 参考資料
昨年度作成した指導案や指導案作成シートなどを、適宜活用してください。
【保存場所】
学習系ファイルサーバ NEW＞先生_c01 西条中学校＞一般＞◆R06＞15 研究＞00_指導案

５．お願い

⑴ 生徒がどのように自らの学習を調整しようとしているかを見取ることができる資料を残してください。

【イメージ図】



⑵ 指導案の**生徒観**には、**生徒の学習状況を具体的な数値とともに記述する**必要があります。生徒の実態を把握・分析するために、各種テストの答案はスキャンするなどして取っておくようにしてください。

【研修講師】澤井陽介先生〈澤井陽介著「できる評価・続けられる評価」（東洋館出版社）より引用

大妻女子大学教授　昭和３５年、東京生まれ。社会人のスタートは民間企業。
その後、昭和５９年から東京都で小学校教諭、平成１２年から都立多摩教育研究所、八王子市教育委員会で指導主事、町田市教育委員会で統括指導主事、教育政策担当副参事、文部科学省教科調査官、文部科学省視学官、国士舘大学教授を経て、令和４年より現職。

〈主な著書〉
『[図解］授業づくりの設計図』（２０２０年）
「教師の学び方」（２０１９年）
「授業の見方」（２０１７年）　　いずれも東洋館出版社、ほか多数。